

CA 19-9 単クローン抗体カクテルの健常人体内分布を中心に検討した。

投与2時間後の全身前面イメージでは、血液プール像および尿中排泄像が著明であった。35時間像で甲状腺・胃部への遊離¹³¹I集積が相対的に増加し、71時間以降は甲状腺以外の体バックグラウンドは著しく低下した。血中クリアランス曲線は2相性の指数関数で近似され、第1相のT_{1/2}は6.6時間、第2相は72.2時間であった。ルゴールによる甲状腺ブロックにもかかわらず3日後甲状腺摂取率は約3%みられ、甲状腺被曝線量は80 mrad/mCiであった。検査時副作用は認められなかった。肝癌肝転移症例で、肝転移巣への異常集積が認められた。

23. ¹³¹I-MIBG の著明な取り込みを認めたカテコラミン産生腫瘍の2例

石川 義弘 塩之入 洋 安田 元
梅村 敏 瀬底 正司 金子 好宏

(横浜市大・二内)

良性および悪性カテコラミン産生腫瘍の2例において、¹³¹I-MIBG シンチグラムを用いた腫瘍の局在診断を行ったので報告する。

〔症例1〕 59歳男性。昭和53年より高血圧の加療開始。昭和59年血圧高度上昇、腹部CTにて左上腹部に限局した腫瘍を認めた。¹³¹I-MIBG シンチグラムにて同部位への著明な取り込みが確認された。手術所見では大動脈傍神経節由来の良性褐色細胞腫であった。

〔症例2〕 49歳女性。昭和52年より狭心症の加療開始。昭和58年に右腎および肝腫瘍を指摘。昭和59年に脳出血のため当科紹介入院となった。胸部X線にて肺野に数個の転移性と思われる陰影を認めた。¹³¹I-MIBG シンチグラムでは右上腹部に著明な取り込みを認めたが、肺野への取り込みは認められなかった。本法は簡便性、描出性に優れ、副作用等も見られなかったが、症例、病変部によっては¹³¹I-MIBG の取り込みの見られないもののある可能性が示唆される。